

## ～肺の生活習慣病～

内科 <sup>うちだ</sup>内田 <sup>よしたか</sup>義孝

タバコとの関連が最も大きいと言われる肺の病気にCOPD(慢性閉塞性肺疾患)があります。

COPDは、長年タバコを吸い続けている間に、肺や気管支の炎症が慢性化し、肺の組織が徐々に蝕まれ、やがて機能の低下を招く病気であるため、肺の生活習慣病とも呼ばれます。

初期の段階では、風邪でもないのに咳や痰が続く、階段や坂道を上がるときに息切れがするといった症状が表われますが、年のせいと片付けてしまう方も少なくありません。

しかし、病気が進行すると食事や会話をする際にも息切れするようになり、外出することもままならなくなる恐ろしい病気です。

以前、落語家の桂歌丸さんや歌手の和田アキ子さんなどがテレビのコマーシャルでCOPDの啓発キャンペーンをしていましたが、まだまだ一般の方の認知度は低いと言わざるを得ません。

現在、COPDと診断され、治療を受けている患者は約24万人ですが、潜在的な患者数は700万人以上にのぼるとも言われ、多くの方がCOPDであることに気づかず、治療を受けないまま症状が進んでい

るものと考えられます。

また、COPDは日本人の死亡原因の第9位を占めていますが、近年増加の一途を辿っています。世界全体で見た場合も、WHO(世界保健機関)の発表によれば、既に死亡原因の第4位を占め、2020年には第3位になるものと予測されています。

COPDの最も有効な治療は、言うまでもなく禁煙です。タバコは間違いなく「百害あって一利なし」です。今すぐ禁煙しましょう。このまま喫煙を続けていると、将来酸素ボンベを背負って生活することになりかねません。どうしてもやめられない人は、禁煙外来を設けている医療機関がありますので、相談してみてください。咳・痰・息切れを自覚している人は、年のせいと諦めずに、医療機関を受診しましょう。症状がなくても長い喫煙歴がある方は特に要注意です。

COPDはレントゲン撮影ではわかりません。ぜひ、肺活量など肺の機能検査(呼吸機能検査)を受けることをお勧めします。

問合せ 市民病院 ☎24-61111 FAX 22-0887